

2015年
夏 号
Vol. 13

幸義会だより

岡山東部脳神経外科



たんぽぽ(病院託児所)の子供たちと一緒に。

『脳を若く保つ』

医師 高井 洋樹

赤ちゃんがクルンクルンと寝返りをする。寝返りは赤ちゃんによりませんが、大体5-6か月です。ハイハイは8か月、一人立ちは1歳です。多いようです。(医学生時代に『寝返りゴロゴロ、ハイハイ8か月、独り立ちは1歳で』と語呂合わせで覚えたことを思い出しました。懐かしい……)

なぜ突然このような話を始めたかという私の長男が、先日寝返りをしたということにつきま。数日前ぐらいからクルンクルンと回るようになりました。生後4か月で寝返りを始めたということ、先ほどの話からすると1か月も早いようです。うちのジジとババは特別な子供扱いで東大だ、天才だとはやし立てていますが……

うちの子供が天才かどうかはさて置き、普段の赤ちゃんの様子をみて感動したのは覚えてい。寝返りもそうですが、赤ちゃんは何回も何回もその行為が成功する前に懸命に挑戦しており、失敗も数えきれなく繰り返します。しかしその事にめげずに果敢に挑戦し、最後には成功する。そして次の行為、例えばハイハイなら手や足を前にもって行こうとする。この一連の、失敗してもめげずに一つ成功するまでに何回も挑戦し、出来るようになれば次々と挑戦するという姿に感銘し、自分の手本としようと考えさせられました。親は子供とともに成長する。とは昔の人はよく言ったものだと思います。

さてこれで終わっても『何言ってるんだ?この

人は、『ただの親バカでしょう。』となってしまうので医学的なことも話したいと思います。

赤ちゃんのように何事も挑戦する若い脳を保つために、病気を事前に発見するために脳ドックが盛んに行われている。しかし赤ちゃんとは対極で、現在日本は高齢化社会、そして高齢社会を超えた超高齢社会となつています。怒られるかもしれませんが高齢者の定義は65歳以上です。そのため脳ドックで高齢者に偶然発見された脳腫瘍、特に良性脳腫瘍が問題となる人が多いです。良性腫瘍というのは周りの組織に浸潤しない、転移をしないというものです。良性なら問題にならないのでは?と考える方もいますが、脳は頭蓋骨に囲まれており腫瘍で脳組織が圧迫されることから臨床的には悪性の経過を辿ることがあるのです。

良性脳腫瘍には下垂体腺腫や神経鞘腫など様々ありますが、ここでは一番発見率が高い髄膜腫に絞って話を進めていくことにします。

現在まで高齢者髄膜腫手術に対しての検討というのは古今東西されてお、フランスのSackoらも2007年に80歳以上の髄膜腫手術の検討を行つています。80歳というのは先ほどの65歳以上を高齢者とする定義には当てはまりませんが、我々医師の立場では全身麻酔で開頭手術するのを躊躇する年齢としてはボーダーとなるような気がします。少なくとも私個人ではそうです。

その中で色々な項目が検討されており、結論としては性別、腫瘍の部位、患者の全身状態、生活自立度、脳がどれくらい圧迫されているか等が手術による予後に関与するとされています。(予後とは病気の進行具合、治療の効果、生存できる確率など、すべてを含めた見通しのことです。)ちなみに様々な検討で女性の方が予後良好とされています。男の立場としては辛いですが、やはり常に男性よりも女性の方が生物として強いということでしょうか。

私はこの中でも患者の全身状態、生活自立度というのが一番重要な因子だと考えており、具体的には心機能や肺機能が低下している、もともと介助が必要な生活自立度であれば予後が悪くなると考えています。

では発見された髄膜腫を元気づちちに手術を行えば良いのでは?と考えられるかもしれませんが、そうでもありません。先ほども言いましたが髄膜腫はあくまでも良性腫瘍であり、必ず年に数%ずつ増大するわけでもなく、巨大な髄膜腫でも何年も変わらないこともあります。そのため手術を行うかどうかの判断は個々の症例で違います。

ではそろそろ結論となるのですが、一度悪化した生活自立度や低下した心機能や肺機能が元に戻るのには中々難しいため、脳ドックは若い時に受診し髄膜腫を指摘された場合には、画像で定期的にフォローするのが重要ということになります。

では赤ちゃんのように何時までも若く、何事も挑戦できるような脳を保つていきましよう。(ふー、これで前半の話と強引に辻褄を合わせて終わらせられた。)

地鎮祭の報告

6月16日早朝、岡山クリニックスの駐車場にて入院患者様の療養環境の改善と、診断力向上や待ち時間短縮目的の第2MRI導入整備と拡張工事の地鎮祭が執り行われました。当日心配された天候もなんとか雨にも見舞われることなく、各関係者の方々と当院理事長はじめ各スタッフに参加していただき執り行うことができました。



滝澤理事長による穿初の儀(鍬入れ)



南副理事長による玉串奉奠

「手術件数でわかる

いい病院2015」

に当院が紹介されました。

週刊朝日MOOK

(2015年3月15日発行)

脳動脈瘤治療の地方ランキング(中国・四国地方)で岡山東部脳神経外科岡山クリニックスが7位で紹介されています。

また、全国5902の医療機関のうち脳神経外科を標榜している19床以下の有床診療所は55件ありますが、岡山東部脳神経外科岡山クリニックスが頭蓋内手術および水頭症手術の件数において全国第1位となっています。

平成26年度手術件数 252件

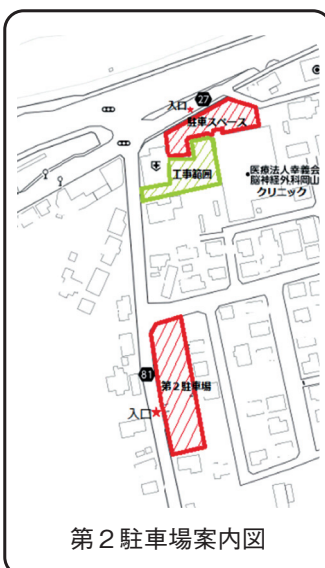
(東備クリニックス・岡山クリニックス合計)

●脳動脈瘤手術総合計61件(うち脳動脈瘤血管内コイル塞栓術16件、開頭直達術45件)

●頸動脈血栓内膜摘出術12件

●脳腫瘍摘出術16件

●微小血管減圧術6件



第2駐車場案内図



野口副理事長による玉串奉奠

早速、翌日より工事準備がはじまり施行区画の仮囲いが行われています。完成予定は本年内としています。が、それまでの期間、施設内の駐車場が一部使用できなくなっております。場内案内で表記しておりますが施設外に第2駐車場を設けています。おわかりにならない方は当院スタッフか案内警備員にお尋ね下さい。工事中、患者様には大変ご迷惑をおかけしますがご了承ください。

医師紹介



医師 和田 裕子

はじめまして、この4月から週1回、月曜日午後の脳卒中外来診療を担当させていただきます。

私は、大阪生まれの大阪育ちのきつすいの関西人で、奈良県立医科大学を平成4年に卒業し、今春まで神戸市の西神戸医療センター神経内科に勤務していました。このたび、夫の生まれ故郷である倉敷市にある川崎医大脳卒中科への転勤となり、こちらにお世話になることになりました。倉敷は、気候が温暖かつ、お魚もおいしく、楽しく過ごさせていた

だいています。資格としては、日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本認知症学会専門医を取得しております。

脳卒中治療講演会

平成27年5月31日(日)に当院岡山クリニックにて脳卒中治療講演会(市民公開講座)が開催されました。「脳卒中の後遺症との付き合い方」をテーマに岡山リハビリテーション病院リハビリテーション科診療部長の森田能子先生より「脳卒中後遺症と向き合うリハビリテーション」、当院副院長の宮崎修平先生より「ボツリヌス療法の実践について」の講演が行なわれました。

脳卒中後遺症の痙性に



医師 赤木 達



皆様はじめまして。この4月から月曜日午

前中の循環器内科外来を担当させていただきますこととなりました赤木達と申します。

平成12年に山口大学医学部を卒業後、岡山大学循環器内科に入局しました。

その後岡山労災病院、岡山医療センターでの勤務を経て、現在岡山大学病院助教として勤務しております。

虚血性心疾患、心不全、不整脈、弁膜症などの各種疾患に加え、それらの原因となる高血圧、脂質異常症などについても幅広く診察しております。

また脳血管疾患は、循環器疾患と密接に関係しており、岡山東部脳神経外科の先生方と協力して診察していきたいと考えております。

胸のしんどさや動悸など、心臓が原因かな?と思われるなら、いつでも受診していただけたらと思います。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

接遇勉強会 高橋良輔

「より良い医療を提供する為に」

当院では、不定期で自己研鑽のために勉強会を行っています。今回は、接遇というテーマで行いました。患者様に対応する上での要望を取り入れ、より良い医療を提供していくことについて学びました。その為にも、共感が重要だと感じました。共感とは、他者と喜怒哀楽の感情を共有すること。もしくは、その感情のことを指します。共感すること、患者様の気持ちを考えていることが伝わり、より良い関係性が築けると思います。自分にとっては大きなことでなくても、患者様にとっては大きなことかもしれません。患者様と同じ目線に立つことも重要であると考えます。その為には、まず目をしっかりと見ること、身振りや相槌などによるジェスチャーによって同調行動をとることも、患者様が自分のことを理解していると思ってもらえます。私は、社会人一年目でまだ一人前の仕事はできませんが、患者様の気持ちに共感し信頼してもらえ医療従事者になつていこうと思います。



5月の献立

「ちらし寿司」

前回の幸義会便りから引き続き、今回も「寿司」の話題です。とあるランキングによると、「好きな料理ベスト3」の第一位は、「寿司(握り寿司、ちらし寿司、巻き寿司など)」だそうです。酢飯・高野豆腐の白、人参や海老の赤、卵の黄色、絹さやの緑、桜でんぶの桃色、海苔の黒など、色鮮やかで見た目にも楽しく、おいしいちらし寿司。ふわっと香る甘い酢の香りに刺激を受けるのか、食欲の低下した方でも「ちらし寿司なら食べれそう」と言われることもあり、当院では、毎月1回は献立に入れるようにしています。

また、酢飯などの冷えたご飯は、でんぶんが変化して出来る難消化性でんぶん(レジスタントスターチ)が増え、炊き立ての温かいごはんよりも消化吸収がゆっくりになるほか、大腸で善玉菌の栄養源になり、善玉菌を増やす効果があるとも言われています。ただし、酢飯には大量の砂糖が含まれるため、食べすぎには注意して下さいね。



デイサービスセンター「歩夢」

ご利用者様の中に毎月短歌を詠んでくださる方がおられます。日頃の出来事・昔の思い出・デイサービスの事・旅行先での事等、その時の風景が思い浮かばれるような素敵な句ばかりです。

澄み渡る
大空蒼く見渡せば
白雲は流る 平和なる里

四季を通して楽しい歩夢に來られる喜びを感じたまま書きとめました。作者様より
東備クリニックの外來掲示板に展示しております。是非に句の風景を思い浮かべながらご覧ください。



新職員挨拶

理学療法士 高橋 良輔



3月26日より岡山クリニックに入職致しました、理学療法士の高橋良輔と申します。広島県の福山市出身でこの春に、朝日リハビリテーション専門学校を卒業しました。まだ学校を卒業して間もないので、臨床経験は乏しく至らない点が多い為、皆様にご迷惑をたくさんおかけすることがあると思います。社会という大きな壁に当たり、自分なりに出来ることから一生懸命に取り組み、少しでも大きく成長していきますので、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

看護師 定國 玲子



4月27日より東備クリニックに勤務しています。以前より東備地区脳外科医療を支える施設である当院に憧れはありましたが、自分がそこで働けるか不安がありました。しかしスタッフの方々がとても暖かく迎えて下さり入職を決定する事が出来ました。不慣れなことばかりで、ご迷惑をお掛けしますが、ご指導の程よろしくお願い致します。

看護師 山中 恵美



4月に岡山クリニックへ入職致しました、看護師の山中と申します。以前は倉敷市の病院で肝臓内科や産科の病棟に勤務しておりました。脳外科は未経験で、救急対応の経験も乏しいため、知識不足を実感する毎日です。戸惑うことも多々ありますが、日々学ぶことが多くあり、新鮮な気持ちで仕事に励んでいます。至らない点ばかりですが、スタッフの皆様は温かくご指導いただき感謝しております。ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、精一杯努力して参りますので、よろしくお願い致します。

言語聴覚士 吉田 幸子



4月から岡山クリニックに言語聴覚士として勤務いたします。吉田幸子と申します。愛媛の専門学校を卒業後、昨年度まで倉敷の病院へ勤めていました。こちらの地域で働くのは初めてのため、知らないことも多く地名など学ぶことが多い毎日です。趣味は読書とDVD鑑賞です。好きな本のジャンルはミステリーで、森博嗣やシャーロックホームズが特に好きです。みなさんのおすすめの本があれば、教えて頂けると嬉しいです。至らない点や迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、患者さまがお元氣になられるように一生懸命努めたいと思っています。よろしく申し上げます。